

西小倉めぐみ教会通信

発行者 日本キリスト教団 西小倉めぐみ教会

〒 611-0042 京都府宇治市小倉町西浦 33-36

TEL&FAX 0774-20-3071 <http://www.n-megumi.com/>

「弱さを誇ろう」 倉橋 剛

聖名を崇めます。

今年も、この小さな教会が多く信仰の友、また全国の教会からお祈りと尊いご献金をいただきながら歩んでこられましたこと、心より感謝しております。

西小倉めぐみ教会が、教会員の約半数が精神しょうがい者であることは今までもお伝えしてきました。ご家族に心の病を負っておられる方々をいれますと、全体の約8割にもなるでしょうか。そのような教会へ2005年4月に招かれ赴任してきた私自身も精神しょうがい者であります。招聘委員会からお話があった時、私はありのままの自分の弱い状態を伝え、このような状態の牧師でもいいのか、と何度か確認したほどでした。そのとき「西小倉は、精神しょうがい者が特に多い教会です。そのしんどさを解ってくれる牧師に来てほしいのです」との答えが返ってきました。ずっと、私自身のテーマであった「弱い立場の方々と共に歩みたい」という願いが、このような形で示されたのでした。役員さんや教会員の方々のその言葉に励まされ、自分自身の力は小さくても、神さまのお導きなら何か私でも用いられるのではないかと、祈りの内に赴任する決意を与えられたのでした。

この3年半の間に多くの出来事がありました。教会員や教会に連なる方で精神的に状態が悪い時などに、幻聴や妄想などが激しく起こる場合があり、とても不安な苦しい状態になるため携帯に何度も電話をかけてこられる方もあります。また、鬱状態が強く出ている時など、とても教会には出席出来ないのだから訪問することも多くあります。気がなくなり、不安感や身体的にもしんどさが出る時は、少し話せる力が出てきたら自分の中にそれらを溜めずに外に出す事の大切さが体験的にもよく分かるのです。「誰かが、私を見ていてくれる。覚えて祈ってくれている」ということが、どれだけ大きな支えになる事でしょう。まだまだ社会

には精神しょうがい者に対して大きな差別や偏見があります。そういう意味では、本当に生きづらい社会です。孤独になりがちな弱さを抱える方々の大切な居場所として、信仰の友との交流の場として、そして心の糧を共にいただける場として、これからもこの小さな教会を大切に共に育んでいきたいと願っています。

先日、信徒伝道週間の礼拝で春田繁則さんの証しを聴かせていただきました。本当に多くの試練の中を通過してこられました。聖書に書かれている「弱さを誇ろう」は、とても簡単にたどり着ける言葉ではありません。ありのままの弱い自分自身を受け入れることの大変さは私も身にしみて感じてきました。とてもきれい事と言えるものではありません。しかし、その言葉の後ろには「私がいつも共にいるから…」という、大きな力、支えがあるのです。神さまの豊かなお恵みを感じつつ、日々、弱い立場の方々と共に歩む者、また、教会でありたいと心から願っています。このような小さな教会を、これからも覚え、支えていただけたら本当に幸いです。

在 主



結婚誓約式を行う倉橋牧師

2008年後半・教会のあゆみ

〈夏のデイ・キャンプ〉 8月15日(金)

恒例となった日帰りのファミリーキャンプ。今年はアクトパル宇治で行いました。こどもも大人も、しょうがいのある仲間も、みんなで一日を共にすごしました。心配していたお天気にも恵まれ、バーベキューや小川の散策、木工体験など自然の中でゆっくりと過ごしました。



●〈信徒伝道週間特別礼拝〉 10月19日(日)



この日は信徒伝道週間を覚え、教会員の春田繁則さんに証しをしていただきました。

私達の教会は約半数の方が精神しょうがい者の方々ですが、春田さんも統合失調症と知的しょうがいがある方です。この日は、ご本人が少しでも話しやすいよう礼拝形式を変え、春田さんを囲むように丸く輪の型になって行いました。



赤裸々ご自分の人生体験を語ってくださる中で心に残ったのは、「振り返ると知っている人が一杯亡くなっています。自殺した人も多い。でも、僕は神さまを信じる強い気持ちを与えられていました。自殺未遂を繰り返した体験があるからこそ、しみじみ思います。『与えられている命を粗末にはいけない』と」という言葉でした。

現在は、同じく精神しょうがいを持つお連れ合いさんと支え合っている日々を歩まれています。



●〈クリスマス礼拝・クリスマスイヴ礼拝〉 12月21日(日)

今年もクリスマス特別礼拝後の昼食は、暖かい鍋をみんなで囲み、合奏なども行いながら、楽しい愛餐会の時を持ちました。

夜のキャンドルライトサービスでは、釜ヶ崎「ふるさとの家」で日雇い労働者と共に歩んでおられる本田哲郎司祭をお招きし、メッセージをいただきました。

「神は小さくされた者の側に立っておられる。サービスする側ではなく、サービスを受けなければならない側に主はおられるのだ。」との言葉は、日々の活動の中から感じておられる事だけに、迫力を持ってわたしたちに迫ってきました。

キャンドルライトサービスには本田司祭の話を聞こうと、近隣の教会の方々も多く来ていただきました。とても嬉しい事なのですが、この日のために結成した素人ばかりの聖歌隊は思わぬ事態に緊張で…。



＜団野明日香さん第33回「わたぼうし音楽祭」作詞の部に入選＞

西小倉めぐみ教会の教会員である団野明日香さんが第33回「わたぼうし音楽祭」作詞の部に入選されました。この音楽祭は障害のある人たちの思いを多くの人々に伝えようと1976年より奈良で開かれているものです。団野明日香さんは、不安神経症や摂食障害などの精神障害がある方で、1人の娘さんがいらっしゃいます。その子育てから感じられた事を描いた「涙の行方」は全国各地からの応募総数356点中の10点に選ばれました。

～涙の行方～

小さな頃 悔しくても 強がって
悲しくても 我慢して こらえてきた涙
泣くことは負け 勝ち組になりなさい
やっと独り立ちして
自由に泣けるように放たれ
だから
寂しくて 悲しくて 嬉しくて 感動して
今 私 たくさん泣いている

大人になって 心揺るがされ
泣いたのは 君が生まれたとき
巡回異常で微弱陣痛
やっと生まれたのに 産声が聞こえない
絶望の淵 悲しみの涙がぼろり
でも 君は頑張った
生きて呼吸して 私の隣に来た
感動の涙がぼろり
寂しくて 悲しくて 辛くて
嬉しくて 感動して
その度 涙がぼろり
もういいんだよね
泣くこと負け組 違うよね
涙は 神様があたえてくれた
特別な共感できる感情
だから強い絆が生まれるよ

初めて君が 心から泣いたのを見たのは
母さんが怒ってとがめた時
君は もう自分はどうでもいい人間だと
辛そうに泣いた
どうでも良くない人なんだよ
私抱きしめた
泣いちゃったら 楽になった？
そうか 涙が辛さも悲しさも
もって行ってくれたんだね
涙は みんなに与えられた
特別な癒しの感情
だから 勇気をくれるよ
涙が乾いた時 もうあの辛さは無い
これからは恥ずかしがらずに
多いに泣いちゃおう
ずっとためてきた涙の行方は
きっとみんなの希望の光



列ズ双に合奏を披露する団野ファミリー

「わたぼうし音楽祭」「涙の行方」
についてのお問い合わせは

〒600-8044
奈良市六条西3-25-4
奈良タンポポの会

まで

教会役員からの一言

秋の間、仕事上のつまづき、独居の母の世話と、メンタル面できつい日々が続きました。それでも教会で用いられている事が支えになっているように思います。これを書いている今、アドベントに入っています。この国の内も外も、おかしな社会情勢にあります。悔い改めと若いと分かち合いに満ちたクリスマスを迎えられるように願っています。

(橋本 博)

最近、つくづく思われること。「もう限界か…」と思える時、「これからどうなるんやろ…」と思った時、「今、出来ることだけやって、後はお任せ!」と思えたら、えらく心が平安に。いつもいつも、とはいきませんが…。でも、感謝!

(倉橋容子)

1年に1度しか行けませんが、今年も2時間あまりかけて教会員である97歳のおばあちゃんをおたずねしました。

「毎朝教会を覚えて、1人1人の顔を思い起こしながらお祈りしています。西小倉めぐみ教会は私の故郷です」

礼拝に集えない友が多くいますが、この小さな教会の存在に神様のお恵みを強く感じた言葉です。

また、その教会を支えてくださっている皆様に深く感謝します。

(門戸幸子)

この通信も7号目。B4裏表に、みんなの思いを詰め込むのもなかなか大変な作業になってきました。みんな字数制限は守ってね!

(安達太郎)

私はうつ病を中心とした精神障害者。3年前に働き口を失いひどく調子を崩し、3年が過ぎました。しかし神様の導きにより今年の2月から半年間、職場適応訓練を行い、ハローワークや支援センター、保健所の支援を受け、とある障害者施設でトライアル雇用を行い、この11月18日、ようやく非常勤職員で正式に採用されました。本当に迷い、悩んだ3年間でしたが、今では主の恵みに感謝する毎日です。
(団野利男)

「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を讃美いたします。

西小倉めぐみ教会は、開設以来、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいをもつ人たち、とりわけ精神しょうがい者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。2005年4月より倉橋剛牧師を後任牧師に迎えた後も、その基本姿勢に変わりはありません。

西小倉めぐみ教会では、教会に集う人たちが自身が精神しょうがい者であったり、その家族に精神しょうがい者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があるところです。

そのため、倉橋牧師招聘後の謝儀に対し、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂き、さらに全国の皆様から「西小倉めぐみ教会を支える会」に献金をいただき、それを住居費等に充てる事で、なんとか牧師家族の生活を支えてきました。

ところが、教区の財政状況が厳しく、宣教連帯の制度からの援助額が毎年大幅に減額されています。2009年度からは今までよりもさらに大幅な減額が予定されています。このような中、教会の支出を見直すとともに、牧師家族には様々な面で生活を見直していただき、切り詰めるところは切り詰めていただく等の努力をさせていただいております。しかし、その努力にも限界があります。

このため、皆様から頂いた「西小倉めぐみ教会を支える会」への献金で、宣教連帯制度からの援助額の減額分をできるだけ埋め合わせ、牧師一家の生活を支えていきたいと考えております。西小倉めぐみ教会のこれからの社会的はたらきをご支援いただくことと併せ、このような経済的事情にどうかご理解をいただき、教会が牧師家族の生活を守れるようご支援いただきたくお願い申し上げます。

2008年12月
西小倉めぐみ教会を支える会
代表 山下茂雄(醍醐教会牧師)

今までに御献金いただいた方のお名前(敬称略・順不同)

◎2008.6.1~2008.12.14現在

宇治教会 山下茂雄 人見 勝 大津東教会 与那城初穂 赤川祥夫 東島勇人 福井達雨 難波 巧 君村千代子 武 公子
川上 信 広瀬規代志 美藤 章 村上 宏 妹尾健弘 竹内富久恵 光明園家族教会 山下茂雄 関 雅人 岡山教会
廣野智子 石川宣道・まなか 鴨東教会 廣畑涙嘉 大久保幸子 希望ヶ丘教会 高知中村教会 北千住教会 鎌ヶ谷教会
三田教会 横浜港南台教会 神奈川教会献金奉仕部 大住世光教会 洛南教会 目白町教会 奥村益良 交野教会
加納範尚 中沢 譲 宮本真希子 岩城澄子 田中 晁・千栄 小曾根一枝 杉本節子 団野利男・明日香 橋本 博 門戸幸子
豊田繁則・三菜子 倉橋 剛・容子 (99件 計 42万0020円)

●これらの献金は、牧師館の家賃支払い及び牧師家族の生活を支える費用として用いさせていただきました。ご支援ありがとうございました。

訂正とお詫び

西小倉めぐみ教会通信第6号において、柳 やなぎたに 谷久美さんの病名を「網膜色素変形症」としておりましたが、正しくは「網膜色素変性症」でした。ご迷惑をおかけしました読者の皆様、ならびに柳谷さんには深くお詫び申し上げます。